

## 教務に関するアンケート調査について

### 理学部教務委員会

理学部教務委員会では、昭和56年末から57年始めにかけて、理学部の教官と学生を対象に、教務に関するアンケート調査を行なった。以下はその結果の概要である。

#### (1) 回答数

回答の総数は教官54、学生86、計140名であった。その内訳を表に示す。なお、教官に対しては個人宛にアンケート用紙を送付したが、学部学生

と修士課程の大学院生に対してはアンケート実施についてアナウンスを行ない、用紙は教室等を単位として一括配布した。博士課程の大学院生は今回の調査の直接の対象ではなかったが、アンケートに参加して差支えない旨を用紙に附記した結果、4名から回答が寄せられた。

表 アンケート集計

	学 部		大 学 院			教 官		
	3 年	4 年	修 士		博 士	助 手	助 教 授 講 師	教 授
			1 年	2 年				
回 答 数	30	10	26	16	4	23	10	21
在 籍 総 数	254	297	225	241	456	180	76	79
回 答 率 (%)	11.8	3.4	11.6	6.6	0.9	12.8	13.2	26.6

## (2) 回答の内容

アンケートでは(A)理学部学生に対する現在の教育について改善すべき点があるか、(B)改善すべき点がある場合、その内容と改善方法、(C)その他の意見、の3点について回答を求めた。回答の内容は多岐にわたったが、(A)については、現在の教育について何らかの問題点があるとしたものが112で大多数を占めた。また、(B)では、教養学部からのいわゆる進学振り分け(「進振り」)制度に関連した意見が78あったことが注目される。とくに「進振り」制度のために教養学部での学習が点取り競争になり易く、創造性のある人を育てる上でマイナスになっているという意見が学生・教官を通じて目立ち、また学生からは、教官により採点基準が異なるため、総平均点に基く振り分けに際して不公平があるのではないかという声が多

かった。

「進振り」関係以外では、学生・教官を通じて第4学期の授業が過密であるという意見が多かった。また、授業の内容に関する学生からの注文もいくつかあった。

### 調査結果の取扱い

今回の調査は回答数も少なく、また、回答の内容も多様であったため、この結果から理学部の教官・学生全体の傾向を速断することはできないが、回答された意見の中には有益な、示唆に富むものが多かった。理学部教務委員会では、調査結果を要約して、理学部教授会に報告するとともに、この結果を今後の理学部の教務を考える上での貴重な参考資料とすることにした。

熱心に回答を寄せられた方々に感謝する。